



障がいという差別がない世界へ

棚田 武蔵

タイという国は日本よりも治安が悪く、発展途上国と聞いていたのでスラムや教育が受けられないような現状だと思っていましたが、タイのスワンナプーム空港からバスで移動しているとき、窓から見えた景色に衝撃を受けました。高層ビルや高速道路がたくさんあり、思っていたより発展していたからです。首都バンコクとその他のエリアの地域格差が大きく、また富裕層と貧困層の格差が大きいと感じました。

タイの研修を通して特に印象に残ったのが、アジア・太平洋障害者センター（APCD）の見学です。そこでは障がいとは何か、障がいを持っている方の働き方、これから目指していくべき社会を考えさせられました。そもそも障がいとは、なんだろう。例えば、車いすの人が階段の登れないのなら、車いすの人が障がいなのではなく、その階段が障がいなんだと気づき、僕の中で障がいのイメージが変わりました。

タイでは、障がいの有無に関わらずみんなが共生し多様性を認め、社会全体が人々を包んでくれていると思いました。誰にでも弱点と強みがある中で、弱点（＝足りないもの）を嘆く前に、自分の強み（＝得意なこと）を最大限に生かしていける、障がいによる差別がない世界になるといいなと思います。